

2024 年度開催 第 12 回大谷大学文藝コンテスト

審査員からのメッセージ（小説部門）

一般社団法人言の葉協会 専務理事 宮脇一徳

「大谷大学文藝コンテスト」は 12 回を迎え、少しコンテストの内容が変わりました。エッセイ部門、小説部門とあったのが、今回から「にんげん部門」「小説部門」となりました。少し戸惑いもあったようで、全国から中学生、高校生合わせてにんげん部門 3273 作品、小説部門 50 作品が寄せられました。たくさんの素敵な作品をありがとうございました。楽しく、ワクワク、ドキドキしながら読ませて頂きました。テーマは多岐に亘り、小説部門をみると、「沙映、大好き」

「私たちのヒトの終わり方」「十八歳駅」「滝ちゃんの恋は多様性」「紡ぐ」「最後の花火」など、その時々課題や、厳しい世相など、多岐でまさに多様性に富んだテーマで作品が仕上げられ、期待を膨らませたり、結果を裏切ったりなど、審査員を困らせ、悩ませて頂きました。審査結果は皆さんが確認されたような内容となりました。いずれも推敲を重ね「コンナモンダ」というようなたくさんの課題に肉薄し、挑戦的なレベルの高い作品になっていました。本当にありがとうございました。中学生、高校生の想像力、創造力、文章力に、期待と頼もしさを感じました。取材のち密さ、丁寧さ、思考力、文章力、語彙力の並々ならぬ工夫と努力、力強さと、将来性を見つけました。更に精進し、もっともっとたくさんの作品を読み、努力を積み重ねて下さい。期待しています。